

やすらぎだより

5
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第179号

「たかがマスク されどマスク」

施設長 植田 誠



3月上旬、副施設長から悲壮な声が届いた。

「このままではマスクが足りなくなります。3月一杯持つかどうか・・・」
何とかなるだろうと、たかをくくっていた私は現実を突き付けられることとなる。

あれから2ヶ月近く、多くの支援と自作マスク等の努力によってどうにか確保はできてきた。そういえば、自宅前のドラッグストアでの恒例の早朝行列も程無く見かけはしない。

早朝ランニングを日課とする私は、ランニング時のマスク着用にはこれまで耳を貸さなかった。すれ違う散歩愛好者からの何気ない冷たい視線にも「散歩とは違う!」「三密は回避!」と自ら言い聞かせながら無視を続けてはきたが、日一日世間の状況は大きく変わってきた。

「走る時もマスクはしなければなりません!!」
妻に娘、そして息子嫁までもがタッグを組んで説き伏せてくる。こういう時、女性軍に逆らって穏やかに事が済んだことはない。日常的に学習している私は約束した。明朝からはマスクを着用して走ることを。

するとどうだろう、昨朝とはすれ違う人への見る目が一変している。着用していない人に対し「走っている者が付けているのに・・・」や、ランニング愛好者には「走る際もマスク着用は常識や!」等、口にこそ出さないが昨日までの自分がありながら、しゃあしゃあと手のひらを返すがごとく他者に対して変容してしまっている。

今更ながらの自分勝手な考えに呆れ果てつつも、これもコロナのもたらす心の闇の一端かもしれない、とも言い聞かす。

マスクの語源はアラビア語の「道化者」らしい。もともとは、笑いとともに非日常を楽しむためのもの。感染症予防としての身近な兵器、その効果と目的は改めて申し上げるまでもないが、本来の意味は知るべしと肝に銘じる。

たかがマスク、されどマスクだ。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- | | |
|------------------|----------------|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ |
| ○在宅サービス事業所 | ○介護予防関連事業 |
| ○居宅介護支援事業所 | ○グループホーム むつみあい |
| ○訪問介護事業 | ○住まいの生活支援事業 |
| ○訪問入浴介護事業 | ○グループホームなごみ筒井 |
| ○短期入所生活介護事業 | |
| ○在宅介護支援センター | |
| ○天理市東部地域包括支援センター | |